

重要文化財門脇家住宅 秋の一般公開

重要文化財門脇家住宅秋季一般公開が11月2日から4日まで行われ、特別展示は、大山友禅染や水引細工など、和の装いを中心とする内容でした。

2日の公開初日には、春の公開で好評を博した「結の会」の皆さんによる朗読会が行われました。今回は、大山寺の寺宝である「梵鐘」にまつわる民話と、藤沢周平氏の長編小説『驟り雨』が披露されました。中村緑氏（フリーアナウンサー）の語る声と菊詔陽子氏の三絃の音色が、主屋の座敷に響きわたり、その空間だけ、江戸時代にタイムスリップしたかのようでした。

今回の公開は天候にも恵まれ、小春日和の穏やかな催しとなりました。



まちのたから(45) 文化財室通信

シリーズ 「日本遺産」 外伝 三

今回は、大山道沿線にまつわる話と文化財について紹介します。

清見寺と千手観音

長田集落にある清見寺は、『伯耆民談記』によると、奈良時代に近くの妻木の里に建立された朝妻寺を前身として、11世紀に現在地に移ったと伝えられています。

清見寺の本尊は、木造千手観音立像です。像高151.1cm、寄木造で宮殿型厨子内に安置されています。表面が褐色の泥地彩色で覆われており、構造や用材の材質については詳細が分からないところもあります。頬がやや横に張り出した卵型の面長な顔つきや見開きの少ない細い目、また、線状な衣文表現や構造等の特徴から、制作年代が室町時代頃の仕事と考えられています。

昭和49年3月1日付で大山町指定文化財となっており、秘仏として大切に保管されています。12年に一度、子年の祭りの日（今度は2020年3月）に公開されますので、是非その機会に町内に伝わる文化財をご堪能ください。

能くください。

汗入郡観音札所めぐり

江戸時代中期以降、観音霊場巡礼や四国八十八ヶ所霊場遍路、六十六部廻国修行などの民間信仰的な行事が盛んに行われるようになりました。そんな中、一国や一郡内などに札所などを設け、短期間でこれを巡って全国規模の札所を廻ると同じご利益を得ようとするのが盛んになっていきます。

伯耆地方でも伯耆札所、汗入郡札所、八橋郡札所などが設けられました。汗入郡内で設けられた伯耆国汗入郡三十三観音世音札所は、一般には「汗入郡札」の名前で知られており、長田集落には全札所の御詠歌版木が残されています。

版木は二枚組で、一つは両面が版面で片面に第一番から第十一番、裏面に第十二番から第二十三番まで、もう一つの版木には第二十四番から第三十三番までが半肉彫りされています。版木には「元禄十五年壬午孟春人日」「本願 足立惣兵衛」「和歌

井上氏詠之」とあり、創設時期や創設に関係した人物の情報なども読み取ることが出来ます。この版木は、当時の民俗信仰を今に伝えるものとして歴史的・民俗的に価値が高いことから、平成25年3月25日付で大山町指定文化財となっています。

汗入郡札の第一番札所は、角磐山大山寺となっています（第二番札所が長田の清見寺）。大山寺が「第一番」札所であることにも、当時の人々の思いが詰まっているように感じられます。

現在は、汗入郡札巡礼そのものは廃れてしまっていますが、その霊場は寺院、祠堂などとして残され、近世からの民俗信仰の痕跡は、今でも残されています。当時の人々に思いを馳せて、札所を巡ってみるのも面白いかもしれません。

（社会教育課 文化財室）



▲汗入郡札版木(町指定)